

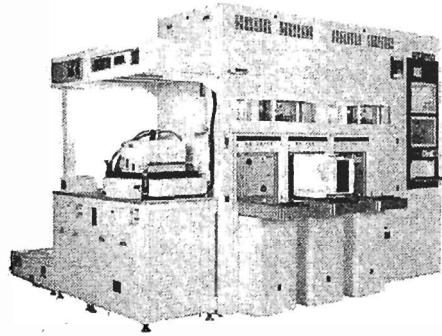
# 韓国VIBと国内向け製造

## さいたまに合併を設立

### 半導体製造装置販売のファースト

半導体製造装置の輸入販売を主に手がけるファーストゲート(埼玉県戸田市、土肥猛社長)は韓国の半導体製造装置メーカー、ソスル社(京畿道、李熙世社長)との合併会社をさいたま市内に設立した。ファースト社はソスル社の製造装置を輸入販売してきたが、国内市場向けに仕様を合わせて品質を向上させるために、新会社を設立。国内での製造に乗り出す。二〇〇七年中に装置十台ほどの生産を目指す。

ファーストゲートが販売する、ソスル社製の半導体製造装置



合併会社はFGCソスル。資本金は一千万円で、ファースト社が五四%を出資した。土肥社長が、社長職を兼務する。二月から本格的な業務を始める。

ソスル社はシリコンウエハーの端面をプラズマで削る装置の製造で世界のトップクラス。〇三年末に代理店契約を締結し、ファースト社が同装

置の国内向け輸入販売を一手に引き受けてきた。

販売が軌道に乗り始めたことから、製造を担う新会社を設立。日本仕様に合わせて装置を提供し、市場投入のスピードアップと品質面での向上を狙う。販売やサポートは従来通り、ファースト社で行う。「日本の大手半導体デバイスメーカーに売り込む」(土肥社長)考えた。

埼玉県、さいたま市、さいたま商工会議所が共同設置した、埼玉国際ビジネスサポートセンター(SBSC)が設立を支援した。SBSCの外資系企業誘致は八社目だ

が、合併会社の誘致に結びつけたのは、今回が初めて。

SBSCは事業所の手配や賃料の補助、会社設立にあたっての専門家報酬の補助などを実施。さいたま商議所の持つ、全国有数の企業OB人材データベースから紹介。外資との合併会社で経営経験を持つ化学関係の技術者の採用が決まるなど、人材面でも支援した。

ファースト社は〇〇年、業務を拡張している。設立のベンチャー。半導体製造装置の商社機能が主だが、〇六年からは同装置に使う部品を自社ブランドで供給し始めるなど、市場を計画している。